

平成29年度病害虫発生予報第12号

平成30年 3月 2日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|-----|------|---------------|------------|-------------------------------------|-------------|
| コムギ | 赤さび病 | やや多い | 県全域 | 前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量は多い | ± + + |

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

生育が早く葉色の濃い場所や過繁茂の場所を中心にほ場を見回り、発生を認めたら、ワークアップフロアブル、アミスター20フロアブルなどで防除しましょう。

多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

果樹

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|-----|--------|---------------|------------|-----------------------------|--------|
| ナシ | 黒星病 | やや多い | 県全域 | 前年秋期の発生量はやや多い 3月の降水量は多い | + + |
| モモ | せん孔細菌病 | 平年並 | 県全域 | 前年秋期の発生量はやや少ない 3月の降水量は多い | - + |
| ブドウ | 黒とう病 | やや少ない | 県全域 | 前年の発生量はやや少ない | - |

・防除対策

[ナシ・黒星病]

発芽前までに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、ICボルドー48Qなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、葉害の心配があるので、石灰硫黄合剤とICボルドー48Qの散布間隔は2週間以上空けるようにしましょう。

・留意事項

名古屋地方気象台3月1日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%となっており、果樹の萌芽、発芽やりん片脱落など生育時期が早まる可能性があります。生育段階に合わせ、防除適期を逃さないように気をつけましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっていると予想します。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。

野菜

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への 影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|---------------------------------------|-------------|
| キャベツ | コナガ | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は多い 3月の気温は高い | ± - + |
| タマネギ | 白色疫病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量はやや少ない 3月の降水量は多い | - + |
| | べと病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は多い | ± + |
| トマト (施設) | 疫病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない | ± + |
| | 葉かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない | ± + |
| ナス (施設) | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない | ± + |
| | すすかび病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は少ない | - + |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い | ± + |
| キュウリ (施設) | べと病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない | ± + |
| | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は少ない | - + |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い | ± + |
| イチゴ (施設) | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない | ± + |
| | うどんこ病 | 少ない | 県全域 | 2月下旬の発生量は少ない | - |
| | ハダニ類 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い | ± + |

・防除対策

[タマネギ・べと病]

発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。シグナムWDGやリドミルゴールドMZなどで防除しましょう。

[トマト（施設）・灰色かび病]

アフエットフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[トマト（施設）・葉かび病]

発生を確認したら、スコア顆粒水和剤（ミニトマトを除く）やシグナムWDGなどで防除しましょう。

[ナス（施設）・灰色かび病]

アフエットフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

ほ場での発生状況に注意し、モベントフロアブルやアグリメックなどで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・べと病]

過剰なかん水は避けましょう。ベトファイター顆粒水和剤やリドミルゴールドMZなどで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

ほ場での発生状況に注意し、ベネビアODやプレオフロアブルなどで防除しましょう。天敵を利用している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

[イチゴ（施設）・灰色かび病]

アフエットフロアブルやセイビアーフロアブル20などで防除しましょう。

[イチゴ（施設）・ハダニ類]

マイトコーネフロアブルや気門封鎖型農薬などで防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

・留意事項

キャベツでコナガが発生しているほ場があります。気温が高くなるとコナガの生育が早くなり、発生量が増加しますので、早めに防除しましょう。また、収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

施設野菜では、日照時間が少なく推移すると、灰色かび病などの病害の発生が増加する可能性があります。ほ場での発生状況に注意し、防除しましょう。

イチゴでアザミウマ類が発生しているほ場があります。例年、気温が上昇する3月から発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するコナジラミ類が、気温の上昇に伴い増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病などが発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台3月1日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%